

茶は老人の用也、紅は若年之もの、又は極老人用也、

一濃茶の時、紫服紗を茶碗江付出スハ、茶碗あつき計にあらず、臺江のせたる心也、又紫は物を清
める故、其心有、依而茶之湯には、初ハ仕廻迄亭主服紗を腰に附る也、是全身を清める爲メ也、

一寸法は疊の目十九ト貳拾壹目也、此寸法は利休妻宗音々、利休戰場江御供之時、服紗に藥を包
被贈、此ふくさ寸法能候、今日ハ是を可用とて、此寸法に極候也、

〔茶道筌蹄〕水遣之部

帛紗 紫 茶 紅 利休形なり、今黄色なるは利休茶といふは蜀羽は相傳物に用ゆ、碎啄齋日本新織蜀羽をこ

のむ、純子風津の類は、出し帛紗に用ゆ、

〔和泉草〕和巾絹ノ寸法

一横一尺一寸、又一尺一寸五分ニモ、下ハ八寸三分五分、九寸五分ニモスル、三方ヲ縫也、九寸四方
ノ絹ハ、茶入ヲ包用也、綾シヨハ、北絹ニ而古來ハシタル也、薄キ羽二重色ハ紫、茶色、赤キモ用也、是
ハ二重也、二重ニ而用、厚キ物ハ一重ヲ用也、色ハ紫、茶色也、古ハ赤モ用シ也、和巾絹ト云吉、フクサ
物ト云ハアシ、

〔明和京羽二重〕幅紗所 又作服茶

鳥丸通三條下ル町 鹽瀨九郎右衛門 同三條上ル町 鹽瀨淨爾

〔江戸總鹿子六諸職名匠諸商人〕幅沙所

日本橋南一丁目 鹽瀨山城 南横町中通 藤重當元 京橋南四丁目 祝權七

〔千家茶事不白齋聞書〕茶通箱之事

一利休好、桐ヤロウ蓋、同笹蓋、同三ッ入勝手物也、原叟好同、同様滑茶箱、如心好、サシ蓋、茶通箱、溜塗
茶通箱好、不知勝手物也、茶通箱と通之字ヨシ、茶入ノ桶ノ字ヨシ、